

# 東工大 クロニクル



Tokyo Tech Chronicle

## Contents

- 1 駐カタル日本国大使が三島学長を表敬訪問
- 1 Tokyo Tech Inspiring Lecture Series1,  
Origins:Earth and Life Science at ELSI  
開催報告
- 3 東工大スパコン TSUBAME-KFC が省エネ性能  
スパコンランキング 2 期連続世界 1 位を獲得！
- 5 事務職員 13 名を表彰 -大学の業務運営に貢献
- 7 平成 26 年度東工大挑戦的研究賞 受賞者決定
- 8 すずかけ台地区自衛消防隊  
「第 39 回緑区自衛消防隊操法技術訓練会」優勝
- 9 10 年先を見据えた世界的トップリーダーから  
学ぶ生命理工学フォーラム開催報告
- 11 SSH 指定校の高校生がすずかけ台キャンパスを  
訪問
- 12 附属図書館すずかけ台分館リニューアル
- 13 平成 26 年度図書館サポーター活動中



No. 501  
September 2014

## 駐カタール日本国大使が 三島学長を表敬訪問

8月7日、津田慎悟 駐カタール特命全権大使が東工大を訪問し、三島良直学長、辰巳理事・副学長、大谷理事・副学長と懇談しました。津田大使は、1975年に本学工学部建築学科を卒業し、商社勤務を経て、2013年10月に着任した民間出身の大使です。

まず津田大使からカタールの現状と将来のビジョンについて、続いて三島学長から東工大の概要についての紹介が行われた後、今後のカタールと東工大の連携の可能性について幅広く情報・意見交換を行いました。

カタールは、秋田県ほどの面積に約220万人の人口が暮らす中東の国で、原油や液化天然ガス（LNG）の輸出拡大で成長してきましたが、現在はエネルギーに頼らない国づくりという新たなビジョンを打ち出し、教育や人材の育成に力を入れてきています。東工大との今後の協力関係が期待されます。



懇談の様子  
(右が津田大使、左中央が三島学長)



記念撮影（左から辰巳理事・副学長、  
津田大使、三島学長、大谷理事・副学長）

## Tokyo Tech Inspiring Lecture Series1, Origins: Earth and Life -Science at ELSI- 開催報告

7月16日、東京工業大学で行われている最先端研究のダイナミズムを紹介する新しい講演会シリーズである“Tokyo Tech Inspiring Lecture Series”が開催されました。シリーズ第1回目となる今回は、“Origins: Earth and Life”～Science at ELSI～と題し、生命惑星学の世界的研究拠点を目指す「地球生命研究所（ELSI）」をハイライトし、研究所の主任研究者でもある2009年ノーベル生理学・医学賞受賞者 Jack W. Szostak 教授や所長の廣瀬敬教授ら4人の世界トップレベルの研究者が、それぞれの専門分野の視点から「地球・生命の起源と進化」の研究最前線を講演しました。



2009年ノーベル生理学・医学賞を受賞した  
Jack W. Szostak 教授の講演

講演会には、会場の東工大蔵前会館くらまえホールの定員 340 名を超える事前申込があり、また当日参加者も多数来場しました。参加者層も幅広く、高校生から社会人の方まで多くの方にお越しいただきました。講演は英語（同時通訳あり）で行われたこともあり、登壇者も参加者も国際色豊かなものになりました。

地球生命研究所は、地球の起源・進化の研究から得た初期の地球環境をもとに、生命起源の謎を解くことを目的とし、地球科学・惑星科学・生命科学の研究者が集まって研究を進めています。

今回は各分野を代表する 4 人の研究者が講演を行いました。

### 1. 細胞型生命の起源



東京工業大学  
地球生命研究所  
主任研究者  
ハーバード大学  
メディカルスクール 教授  
**Jack W. Szostak 教授**

### 2. 太陽系外の地球の仲間たちや生命を探して



ハーバード大学  
生命起源イニシアチブ (ELSI  
サテライト) ディレクター  
**Dimistar Sassellov 教授**

### 3. 水と海の起源



東京工業大学  
地球生命研究所  
教授・所長  
**廣瀬 敬 教授**

## 4. 火星 VS 地球 ～生命の起源に惑星が与える制約～



東京工業大学  
地球生命研究所  
主任研究者  
カリフォルニア工科大学 卓越教授  
**Joseph L. Kirschvink 教授**

今講演後に行われた質疑応答では、「生命の定義って何?」「生命誕生に必要な条件は?」など、たくさんの質問が飛び出し、大いに盛り上がりました。英語での質問に挑戦する学生や、イベント後、各教授に直接質問を投げかける高校生たちの姿もみられました。

今後も東工大の最先端研究をご紹介する“Tokyo Tech Inspiring Lecture Series”を開催予定です。どうぞご期待ください。

## 東工大スパコン TSUBAME-KFC が 省エネ性能スパコンランキング 2 期連続世界 1 位を獲得！

次世代 TSUBAME3.0 に向けたプロトタイプシステム、オイルによる冷却システムを備えた「TSUBAME-KFC」がスパコンの省エネランキング Green500 List の 2014 年 6 月版において世界 1 位を獲得し、2013 年 11 月版に引き続き 2 期連続で世界 1 位を達成。

東京工業大学学術国際情報センター(GSIC)が、日本電気株式会社(NEC)、米国 NVIDIA 社など内外各社の協力で開発し、2013 年 10 月に稼動を開始したスーパーコンピュータ「TSUBAME-KFC」(用語 1)が再び世界最高の省電力スパコンとして認定されました。The Green 500 List (用語 2) の 2014 年 6 月版において 1 ワットあたり 4,389.82 メガフロップス (用語 3) という値を記録し、世界 1 位になったことが 6 月 30 日 (ニューヨーク時間) に発表されました。2013 年 11 月版に引き続き 2 期連続での 1 位となり、低炭素社会の実現に向けた日米合同の技術リーダーシップを示したといえます。同時にビッグデータ処理の省エネルギー性を競うために昨年からはまった The Green Graph 500 List (用語 4) のビッグデータ部門にて世界 6 位となりました。

また、昨年 9 月にアップグレードされた同センターのスパコン



TSUBAME2.5



「TSUBAME2.5」も1ワットあたり2,951.95メガフロップスを記録し、The Green500 Listにおいて世界8位にランキングされています。「TSUBAME2.5」は、The TOP500 Listにおいても世界13位となり、日本国内ではスーパーコンピュータ「京」に次ぐ第2位となりました。

TSUBAME-KFCはTSUBAME2.0の後継となるTSUBAME3.0及びそれ以降のためのテストベッドシステムとして、同センターが推進する文部科学省概算要求「スパコン・クラウド情報基盤におけるウルトラグリーン化技術」プロジェクトによって設計・開発されたものです。同プロジェクトではスーパーコンピュータの消費電力とそれに係る冷却電力の双方の削減を目標としており、TSUBAME-KFCでは計算ノードを循環する油性冷却溶媒液の中に計算機システムを浸して冷却する油浸冷却技術及び冷却塔による大気冷却の組み合わせによって非常に少ない消費電力で冷却できるように設計しています。

TSUBAME-KFCシステムは40台の計算ノードとそれらを接続するFDR InfiniBandネットワークで構成されています。各計算ノードは1UサイズのサーバにIntel Xeon E5-2620 v2プロセッサ(Ivy Bridge EP)を2基、NVIDIA Tesla K20X GPU(用語5)を4基搭載しており非常に高密度になっています。40ノードを1つの油浸ラックに収容されるコンパクトな設計になっています。システム全体の理論ピーク演算性能は217テラフロップス(倍精度)になります。

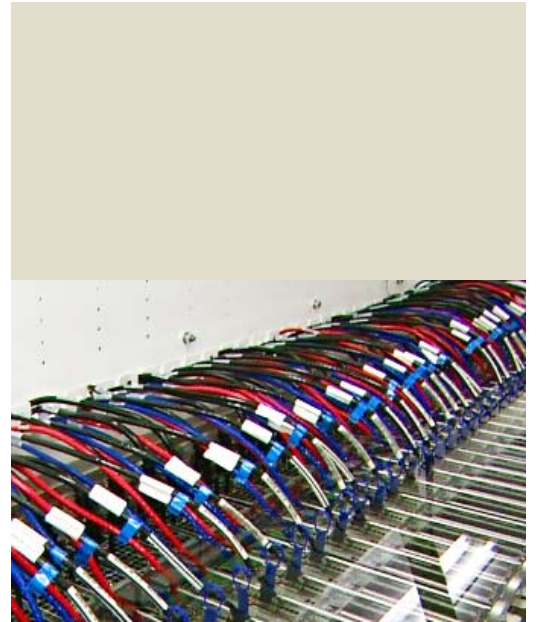
今回の結果は、東工大学術国際情報センターにおいて省電力化を目指して行われてきた種々の研究成果が結実したものと言えます。ウルトラグリーン化プロジェクトだけでなく、同センターにおける科学技術振興機構の戦略的創造研究推進事業(JST-CREST)における「ULPHPC(超低消費電力高性能計算)」「EBD:次世代の年ヨッタバイト処理に向けたエクストリームビッグデータの基盤技術」などの基礎研究プロジェクト、また米国NVIDIA社との数年来の共同研究プロジェクトにおいて、最新技術であるGPU(用語5)のスパコンにおける大幅活用やHPCシステムの省電力化の研究などが続けられてきました。それらの成果をもとに、NECと米国NVIDIA社を中心に、米国Green Revolution Cooling社、米国Super Micro Computer社、米国インテル社、Mellanox社などが加わった企業と共同開発が行なわれました。

#### 用語1 TSUBAME-KFC :

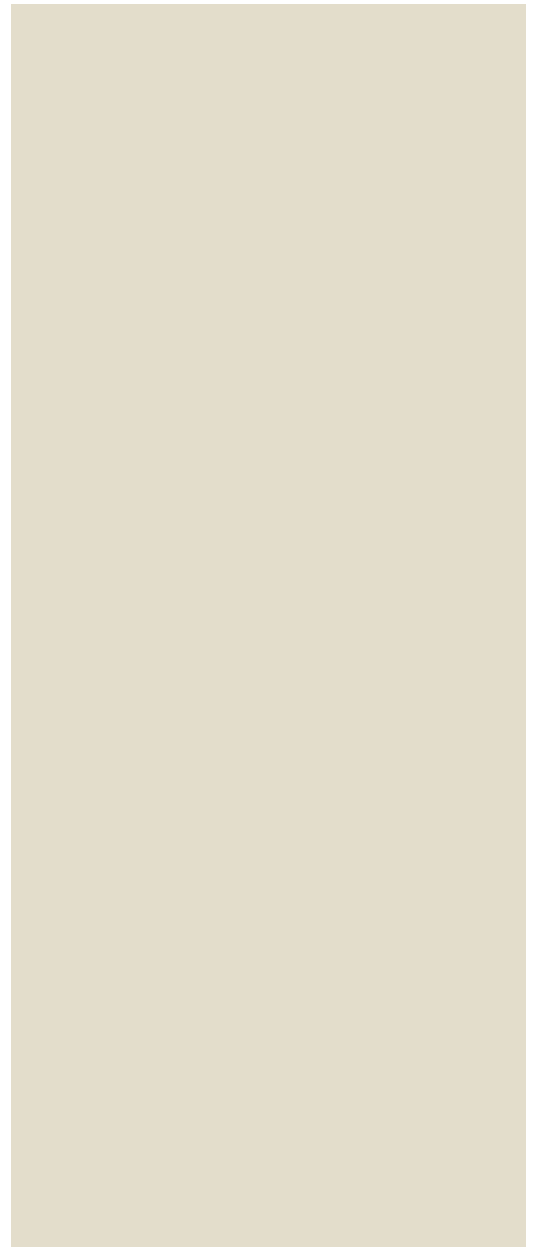
TSUBAME Kepler Fluid Coolingが語源。TSUBAME2.5と同様にNVIDIA社のKepler世代GPUを搭載していますが、TSUBAME-KFCでは計算ノードを液体に浸けて冷却している特長から名づけられています。

#### 用語2 The Green 500 List :

スパコンのベンチマーク速度性能を半年ごとに世界一位から500位ま



TSUBAME-KFC



でランキングする The TOP 500 List に対して、近年のグリーン化の潮流を受け TOP500 のスパコンの電力性能（速度性能値 / 消費電力）を半年ごとにランキングしているリスト。

**用語 3 ペタフロップス(Peta flops)、テラフロップス(Tera flops)：**  
フロップスは 1 秒間で何回浮動小数点の演算ができるかという性能指標。ギガ(10 の 9 乗)、テラ(10 の 12 乗)、ペタ(10 の 15 乗)など。

**用語 4 The Green Graph 500 List：**  
The Green 500 List のように、ビッグデータ解析性能を競う Graph 500 のスパコンの電力性能（解析性能値 / 消費電力）を半年ごとにランキングしている 2013 年の 5 月から始められたリスト。

**用語 5 GPU (Graphics Processing Unit)：**  
本来はコンピュータグラフィックス専門のプロセッサだったが、グラフィックス処理が複雑化するにつれ性能および汎用性を増し、現在では実質的には HPC 用の汎用ベクトル演算プロセッサに進化している。

## 事務職員13名を表彰 -大学の業務運営に貢献

6 月 25 日に大学院情報理工学研究科大会議室において、職務表彰式が行われました。この表彰は、事務職員等を対象として、職務上の功績があった職員を表彰し、職員の勤労等に報いるとともに、他の職員の勤労意欲を高め、大学の発展に寄与することを目的として行われているものです。

職務の遂行にあたり、大学の業務運営に貢献し、成績顕著と認められた事務職員 13 名が表彰を受け、三島良直学長から表彰状が授与されました。



表彰状の授与

今回表彰された職員は次のとおりです。

### 職務表彰（11 件 11 人）

| 推薦部局 | 所属グループ等            | 職名   | 氏名   | 推薦理由                            |
|------|--------------------|------|------|---------------------------------|
| 総務部  | 総務課<br>総務秘書グループ    | 主査   | 藤原則雄 | 「各種行事等の実施について多大なる貢献」            |
|      | 企画・評価課<br>総合企画グループ | スタッフ | 角野葉子 | 「教育改革の推進にあたって、積極的に業務を遂行し、抜群に努力」 |

|       |                       |       |       |                                                        |
|-------|-----------------------|-------|-------|--------------------------------------------------------|
| 財務部   | 主計課<br>総務・監査グループ      | グループ長 | 城戸陽   | 「主計課総務・監査グループ業務の着実な遂行」                                 |
|       | 経理課<br>運用・支出グループ      | グループ長 | 小野寺慎哉 | 「業務への献身的な取組で、効率化と大幅経費削減を実現」                            |
| 国際部   | 国際連携課<br>企画・調整グループ    | グループ長 | 園山みお  | 「海外機関等との調整による国際交流イベント実施への多大なる貢献」                       |
|       | 留学生交流課<br>交流推進グループ    | スタッフ  | 堀有美子  | 「協定校からの交換留学生等の受入業務における多大なる貢献」                          |
|       | 国際事業課<br>国際基盤グループ     | スタッフ  | 松島史秋  | 「国際部、国際事業課内における業務システム改革・マネジメント」                        |
| 学務部   | 教務課<br>教育企画グループ       | スタッフ  | 笹川祐輔  | 「担当職務に抜群に努力し、特に成績が顕著である」<br>会議効率化の工夫、教育推進室業務の円滑な運営に寄与」 |
|       | 入試課<br>学部入試グループ       | グループ長 | 関口広海  | 「入試業務について抜群に努力し、教職員からの信頼が顕著である」                        |
| 研究推進部 | 研究企画課<br>コンプライアンス担当   | 専門職   | 古池はるみ | 「教育研究資金不正防止計画の推進」                                      |
|       | 研究資金管理課<br>研究資金契約グループ | 主任    | 上里真理子 | 「外部資金業務を「外部資金業務経験を生かした事務の体系化・リーダーとして貢献」                |

## 業務改善（2件 2人）

| 所属             |                   | 職名 | 氏名   | 改善計画                      |
|----------------|-------------------|----|------|---------------------------|
| すずかけ台<br>地区事務部 | 総務課<br>総務・研究所グループ | 主査 | 高橋是光 | 「鍵の貸し受け自動化のための鍵管理システムの導入」 |
|                | 総務課<br>総合理工事務グループ | 主任 | 奈須純子 | 「研究科内各種会議の電子化、集約化」        |



表彰者の方たちで

# 平成 26 年度東工大挑戦的研究賞 受賞者決定

挑戦的研究賞は、本学の若手教員の挑戦的研究の奨励を目的として、世界最先端の研究推進、未踏の分野の開拓、萌芽的研究の革新的展開又は解決が困難とされている重要課題の追求等に果敢に挑戦している独創性豊かな新進気鋭の研究者を表彰するとともに、研究費の支援を行うものです。本賞を受賞した研究者からは、数多くの文部科学大臣表彰受賞者が生まれています。

13 回目となる今回は 13 名が選考されました。

## 平成 26 年度東工大挑戦的研究賞 受賞者一覧

| 受賞者        | 所属                             | 職名  | 研究課題名<br>(★は学長特別賞)                            |
|------------|--------------------------------|-----|-----------------------------------------------|
| カールマン タマシュ | 大学院理工学研究科<br>(理学系)数学専攻         | 准教授 | 低次元トポロジーと代<br>数的組合せ論                          |
| 谷津 陽一      | 大学院理工学研究科<br>(理学系)基礎物理学専攻      | 助教  | 突発天体のための超<br>小型 X 線偏光計観測<br>衛星の開発             |
| 太田 健二      | 大学院理工学研究科<br>(理学系)地球惑星科学専<br>攻 | 講師  | ★下部マントル鉱物の<br>音速測定から探る地<br>球深部の化学組成           |
| 吉松 公平      | 大学院理工学研究科<br>(工学系)応用化学専攻       | 助教  | 電気化学トランジスタ<br>による超伝導デバイ<br>スの実現               |
| 宮島 晋介      | 大学院理工学研究科<br>(工学系)電子物理工学専<br>攻 | 准教授 | 超高効率ペロブスカイ<br>ト・シリコンハイブリッド<br>太陽電池の実現         |
| 小倉 俊一郎     | 大学院生命理工学研究科<br>生物プロセス専攻        | 准教授 | アミノレブリン酸投与後<br>のポルフィリンを用い<br>たがん検診システムの<br>開発 |

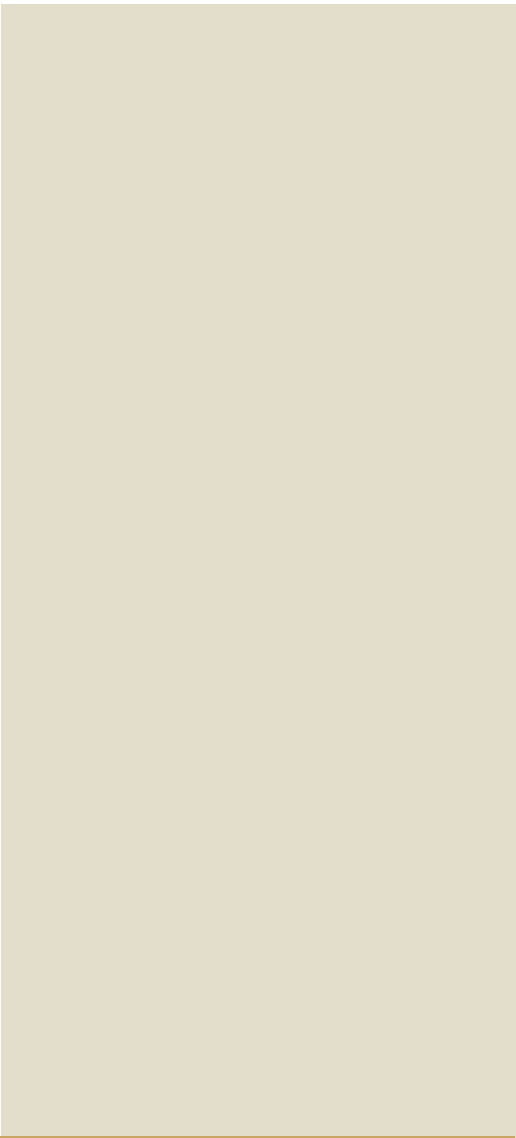


昨年度の同賞授賞式での  
プレゼンテーションの様子



|        |                           |     |                                                         |
|--------|---------------------------|-----|---------------------------------------------------------|
| 大窪 章寛  | 大学院生命理工学研究科<br>分子生命科学専攻   | 准教授 | 人工 U1snRNA を用いた<br>革新的遺伝子治療の<br>開発                      |
| 稲木 信介  | 大学院総合理工学研究科<br>物質電子化学専攻   | 講師  | 微粒子の選択的多官<br>能化と機能材料への<br>応用                            |
| 鈴木 大慈  | 大学院情報理工学研究科<br>数理・計算科学専攻  | 准教授 | ★高次元大量データに<br>おける構造的学習の<br>統計理論と計算手法                    |
| 田原 麻梨江 | 精密工学研究所                   | 准教授 | 弾性管の音響特性を<br>利用した人にやさしい<br>「たおやかな」触覚セン<br>サの開発          |
| 中島 清隆  | 応用セラミックス研究所<br>セラミックス機能部門 | 助教  | 新規な水中機能触媒<br>を用いた植物由来炭<br>化水素からの必須化<br>学品原料の環境低負<br>荷合成 |
| 松石 聡   | 元素戦略研究センター                | 准教授 | 電子ドナーとしての水<br>素アニオン活用による<br>新電子機能物質探索                   |
| 雨宮 智宏  | 量子ナノエレクトロニクス研<br>究センター    | 助教  | 紫外線硬化樹脂によ<br>る光細線を用いた<br>InP/Si ハイブリッド光<br>集積モジュールの開発   |

(所属順・敬称略)



# すずかけ台地区自衛消防隊 「第 39 回緑区自衛消防隊操法技術訓練会」優勝

2014 年 6 月 25 日、鴨居自動車学校にて第 39 回緑区自衛消防隊操法技術訓練会が開催され、屋内消火栓操法（男性又は混成の部）において、すずかけ台事務部チームが優勝、大学院総合理工学研究科吉田研究室チームが 2 位の成績を収めました。

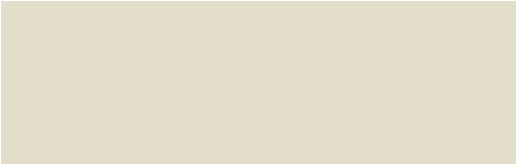
すずかけ台事務部チームは、昨年の初優勝に続く連覇となり、10 月に開催される横浜市自衛消防隊操法技術訓練会への出場を決めました。今年度は区内 20 事業所（約 120 名）が参加し、日頃の訓練の成果を披露しました。



学長への優勝報告

## 第 39 回緑区自衛消防隊操法技術訓練会

- 屋内消火栓操法（男性又は混成の部）  
優勝 すずかけ台事務部チーム  
2 位 大学院総合理工学研究科吉田研究室チーム



●参加者

|               |      |
|---------------|------|
| 会計課安全衛生推進グループ | 有山弘行 |
| 会計課調達グループ     | 扇谷理絵 |
| 総務課総務・研究所グループ | 上里義之 |
| 総務課人事グループ     | 池谷大輔 |
| 会計課調達グループ     | 野勢竜平 |



優勝の事務部チーム、2位研究室チーム

## 10 年先を見据えた世界的トップリーダーから学ぶ 生命理工学フォーラム 開催報告

最近 20 年のライフサイエンス研究の発展はめざましいものがあります。特に理工学の複数分野との融合研究によって、再生医療や超高速ゲノム解析に代表される革新的なライフサイエンス・エンジニアリング技術が多く開発されています。幅広い視点で未来を見据え、新たな発想に基づいた柔軟で創造性あるアプローチの重要性が益々高まっています。

このような現況のなか、創設から 20 年を経た大学院生命理工学研究科は、将来のライフサイエンス研究を担う学部生・大学院生、若手研究者を対象に、10 年先を見据えた近未来のライフサイエンス研究のあり方や方向性を考える「10 年先を見据えた世界的トップリーダーから学ぶ生命理工学フォーラム」を企画しました。国内外で最先端の研究を展開し、ライフサイエンス分野の世界的リーダーである先駆的研究者を招聘し、その分野において解決すべき問題点や理工系研究者に期待したい技術を含めた現状と将来について、熱く語っていただくことを目的としています。

記念すべき第 1 回フォーラムを 5 月 28 日、すずかけ台大学会館（すずかけホール）にて開催し、世界をリードする脳科学者、御子柴克彦教授（理化学研究所・脳科学総合研究センター）にご講演いただきました。御子柴先生は、1989 年に細胞が外からの刺激に応じて細胞内でカルシウムイオンを放出する IP3 受容体チャネルを発見し、その遺伝子配列を世界に先駆けて決定されました。その後も細胞内における情報伝達機構に関する研究で常に世界をリードされてきました。その功績によって、学士院賞をはじめ国内外の数多くの賞を受賞され、今年 2 月にはフランス共和国の最高勲章であるレジオン・ドヌール勲章を受章されています。



10 年先を見据えた世界的トップリーダーから学ぶ生命理工学フォーラム ポスター

本フォーラムをより有益なものとするために、講演会に先立ち、研究科を代表して岡田助教（分子生命）、門之園助教（生体分子）、鈴木准教授（生体システム）、十川准教授（生命情報）の4名が自身の最新の研究成果を御子柴先生に紹介し、交流する機会をもうけました。研究科長室でおこなった研究交流会は、終始和やかな雰囲気で行われましたが、発表途中での活発な質疑応答もあり、一人15分の発表時間の予定は大幅にオーバーし、とても密度の濃い有意義な時間をもつことができました。世界的に著名な研究者から直接質問やアドバイスをいただくことができ、若手研究者にとっても励みとなり、また東工大のライフサイエンス研究を知っていただく良い機会になりました。

研究交流会終了後に休む間もなく、午後4時から講演会がおこなわれました。学部1年生から大学院生、そして本研究科研究員、教員と、会場のすずかけホールは予備の椅子も埋まるほど多くの聴講者が集まりました。講演タイトルは「生命科学における真理の探求」で、御子柴先生の世界的な発見から、現在に至る研究の発展の経緯を、あますことなく解説していただきました。そのなかでも、講演タイトルの副題とされた「オリジナルな研究で世界をリードするには」どうしたらよいかを、学生や若手研究者に向けて、最初は語りかけるように、そして研究成果の部分にさしかかると熱く語ってくださいました。御子柴先生の研究成果は、どれも世界をリードするエキサイティングなものであり、そのデータ量の膨大さに聴衆は驚かされました。長年多くの研究員らが積み重ねてきた研究成果は、予定していた1時30分の講演時間内に収まりきるものではなく、講演会は2時間30分にも及ぶものとなりました。

予定時間を大幅に超える講演会でしたが、途中退席者はほとんどなく、多くが御子柴先生の講演を最後まで傾聴していました。また、来年70歳になられる御子柴先生ですが、2時間半ものあいだ疲れた様子を見せることなく、情熱的に研究の面白さを語ってくださいました。講演の後半は多少専門知識が必要となる内容でしたが、その詳細が理解できずとも、膨大なデータ量と圧倒的な研究成果を肌にかじることができました。

以上のように、第1回のフォーラムは、講演者との研究交流会とともに、非常に有意義なものとなりました。2012年に創設20周年を迎えた大学院生命理工学研究科では、次の30周年、40周年と、常に未来を見据えた研究を展開していくために、本フォーラムがそのきっかけとなるよう、今後とも継続して回を重ねていく予定です。



御子柴先生と生命理工若手研究者との交流会



講演会に先立ち、本フォーラム設立の趣旨を説明する関根研究科長



御子柴克彦先生



## SSH 指定校の高校生が すずかけ台キャンパスを訪問

7月16日、スーパーサイエンスハイスクール（SSH）指定校である埼玉県立松山高等学校の2年生42名および教員3名が、本学すずかけ台キャンパスを訪問し、講義の聴講および研究室の見学を行いました。松山高等学校は、埼玉県東松山市にあり、創立90年を越える県立の高等学校（男子校）です。今回、SSHの教育活動の一環として、松山高等学校の清水千津子先生から訪問の依頼があり、講義および見学会を開催することになりました。清水先生は、資源化学研究所 吉沢道人准教授の高校時代の恩師、清水則尚先生の奥様でもあります。

当日、大型バスで予定の約30分前に到着した高校生らは、講義会場のフロンティア研究機構の配慮で、館内の付属博物館への入場が可能となり、シーラカンスなどの見学で時間調整ができました。講義の部では、本学の学部および大学院の紹介の後、吉沢准教授の研究成果を中心に、「超分子化学：新しい分子フラスコを作る！」と題する講義を行いました。講義時間は、大学院の講義と同じ90分（45分×2回）として、その中で多くの質疑応答や分子模型を使ったカプセルの作製を行いました。自ら手を挙げて積極的に講義に参加する高校生が数多くいました。

講義の主題である「分子フラスコ」は、特別なものと思われがちですが、その代表例であるシクロデキストリン（糖の環状化合物）は、身の回りの飲料や食品に含まれています。また、ミセル（石鹸や洗剤からできる球状の集合体）は、日常生活で必要不可欠な分子フラスコです。吉沢准教授は、前例のない分子フラスコの作製を数年前から始め、約1 nmサイズのカプセル型の分子フラスコを開発することに成功しています[1,2,3]。本講義では、これまでの分子フラスコの紹介と、新しい分子フラスコ的设计から合成、そして、その機能（フラーレンC60の選択的内包や蛍光性など）を、専門用語を出来るだけ使わずに説明しました。その努力もあり、講義後のアンケートでは、理解できたとの意見が多くありました。

講義後、高校生らは大学院生に混じってキャンパス内の食堂で昼食をとり、その後の自由時間に生協や図書館、博物館を見て回りました。見学会の部では、資源化学研究所の彌田・長井研究室、藤井・酒井研究室、そして吉沢准教授が所属する穂田・吉沢研究室という、研究分野の異なる3つの研究室（材料・分析・合成）を、4班に分かれて見学しました。測定中の最新の分析機器（電子顕微鏡やレーザー発生装置など）や合成反応中のガラスフラスコを目の前に見ながらそれぞれの説明を受け、高校生らは感動していました。合成の実験室では、穂田・吉沢研究室の学生が丁寧に説明しました。



講義中の様子



講義と見学会後の集合写真



今回、40 人を越える高校生の訪問で、特に研究室の見学に関して心配されましたが、事前の安全確認（見学ルートの調整、実験メガネの用意など）により、全ての予定をトラブルなく終了することが出来ました。また、研究室見学が予想以上に、高校生らの印象に残ったことがアンケートから分かりました。

## 附属図書館すずかけ台分館リニューアル

すずかけ台キャンパスにある附属図書館すずかけ台分館（以下、すずかけ台図書館）1 階の全面改修が完了し、7 月 4 日にリニューアルオープンしました。2 階にあったペリパトス文庫を 1 階の入館ゲートから入ってすぐの場所に移動し、カーペットを敷いて新たに椅子や机を用意しました。カウンタースペースを縮小し、ゆとりのあるくつろげる空間に生まれ変わっています。

また、より多くの方に広く読書に親しんでいただくため、7 月 4 日よりすずかけ台図書館内にあるペリパトス文庫の運用が変わりました。蔵書検索 (OPAC) から検索できるようになりました。貸出中の場合、返却予定日や予約人数も表示されます。

リニューアルオープン当日にはお披露目会が行われ、学長、理事、評議員の他、ペリパトス文庫の経費を拠出しているすずかけ台地区 5 部局などから総勢 42 名をお迎えしました。

北條分館長挨拶の後、まず、リニューアルした 1 階とペリパトス文庫を、次に 2 階のペリパトス・オープングャラリーの絵画を見学していただきました。

ペリパトス・オープングャラリーは、すずかけ台キャンパスを訪れる学生や教職員が、キャンパスに安らぎ、和み、憩いを感じ、愛着を持てるような雰囲気を生むために 2013 年 3 月誕生したものです。本年度はそのうち 1 点、女子美術大学芸術学部 絵画学科 洋画専攻 (2013 年 3 月卒業) の山本真紀子さん作の絵画「道」(ペリパトス・オープングャラリー図書館長賞受賞) を、すずかけ台図書館 2 階に展示しています。

参加者は熱心に絵画やペリパトス文庫を見学し、その場でペリパトス文庫の図書を借りる方もいました。

すずかけ台図書館では快適な学修環境の提供のため、施設および運用の改善に努め、みなさまのご利用をお待ちしております。



全面改修されたすずかけ台図書館1階

## ペリパトス文庫とは

ペリパトス文庫は 2007 年 3 月、理工学系以外の分野について知識や教養を深め、研究・学習活動の合間に憩える空間のひとつとして、すずかけ台図書館内にオープンしました。小説、新書、ガイドブック等の新刊書を中心とした図書 5,000 冊以上を備えており、本年度もすずかけ台 5 部局から拠出された経費をもとに、新しい図書を購入しています。

## ペリパトス文庫の名前の由来

「ペリパトス文庫」という名前は、すずかけ台キャンパスの将来計画の名称「ペリパトスの研杜（けんと）21」からとって名づけられました。「ペリパトス」Peripatos（英語では "Peripatetic"）とは、ギリシア語で散策路、遊歩道を意味しています。

アリストテレスが開いた学園には、散策路（ペリパトス）が張り巡らされ、そこを歩き回りながら講義したというアリストテレスの弟子たちは「ペリパトス学派」と呼ばれました。日本では、これを逍遥（しょうよう）学派と訳すこともあります。すずかけ台キャンパスは、開設 50 年を迎える 2025 年までの道筋を示すキャンパス計画の名称を、『すずかけ「ペリパトスの研杜 21」将来計画』としています。



ペリパトス・オープンギャラリーにて



お披露目会の参加者

## 平成 26 年度図書館サポーター活動中

図書館サポーターとは、図書館で働く東工大生のことです。大岡山本館には 22 名、すずかけ台分館には 3 名の図書館サポーターがいます。新たなメンバーを迎え、2014 年 6 月から平成 26 年度の図書館サポーターが活動を開始しました。本年度も図書館に対する興味と仕事に対する熱意があふれる学生たちが集まりました。

図書館サポーターの仕事は、図書館カウンターでの対応や本棚の整理、購入した図書を図書館で利用してもらうための装備（東工大附属図書館の蔵書ラベルを貼るなど）、企画展示の図書推薦など、多岐にわたります。

裏方の仕事が比較的多いものの、時には新入生や、東工大を見学に来た高校生に図書館を案内するなど、表舞台に立つこともあります。



大岡山本館の図書館サポーター

また、図書館運営やサービス改善のための提案も重要な仕事です。特に図書館利用者の観点での意見は、図書館にとって貴重なものとなっています。

また図書館では、図書館サポーター同士の交流も大切にしたいと考え、年に数回の交流会を催したり、仕事のコツや感想を共有できる交換ノートを用意したりしています。学年や学部・研究科の異なるメンバーと一緒に働くことで、人脈を広げるとともに、協働することの楽しさを感じていただければと思います。

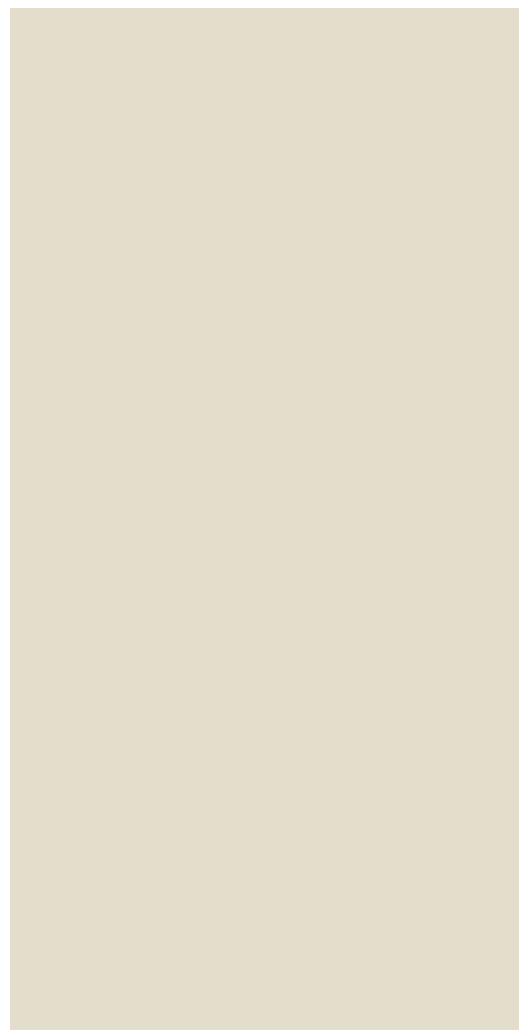
今後も図書館を活性化するべく、図書館サポーターの活動範囲を広げていく予定ですので、その活躍にご期待ください。



大岡山本館の図書館サポーター



すずかけ台分館の図書館サポーター



## 東工大クロニクル No.501

平成26年9月30日 東京工業大学広報センター発行

©東工大クロニクル企画チーム

編集長 小野 功（大学院総合理工学研究科准教授）

陣内 修（大学院理工学研究科准教授）

住所：東京都目黒区大岡山2-12-1-E3-13 〒152-8550

TEL:03-5734-2975,2976 FAX:03-5734-3661

E-mail:publication@jim.titech.ac.jp

URL: <http://www.titech.ac.jp/about/overview/publications.html#h3-7>

ISSN 1349-9300